

NO,15

イヌシデ

(カバノキ科)

イヌシデは、高さ20mほどになる落葉広葉樹で、ソロやシロシデの別名もあります。島根県内では、アオシデ、ステノキ、シラシデ、ノシデなどの地方名で呼ばれています。分布は、岩手県以西の本州や四国、九州の他、朝鮮半島や中国にも広がっています。

山野にふつうに見られる木で、樹皮は灰白色で滑らかです。しかし、老木になるとやや浅い裂け目ができ、独特の縦筋模様となります。県内に生育するシデと名のつく木は3種あり、このイヌシデの他にクマシデとアカシデがあります。この内イヌシデは最もよくお目にかかるシデで、若い葉や枝に毛が多いのが特徴の一つです。

このなかまは、4～5月ごろ少し変わった花を付けます。雄花は、前年に成長した枝の先に4～5cmほどの黄褐色の花序を垂れ下げます。雌花は、当年に伸びだした枝の先につき、夏ごろには実のついた4～8cmほどの果穂を垂れ下げます。この果穂も変わった形をしており、小さな葉状の果ほうをまばらに付けています。

材は、建築・器具材の他にシイタケのほだ木などに利用されます。



▲ イヌシデの果穂



▲ クマシデの果穂：葉や果穂に違いがある



▲ イヌシデの花：たくさんの花穂を垂れ下げる



▲ イヌシデの花